

令和4年度第17回

訪問看護研究発表会 報告



収録 令和5年2月25日(土) 於:ハートピア京都 3階大会議室

開会ごあいさつ

研修委員長 北仲 裕美

ケア2 1 メディカル訪問看護・リハビリステーションぴ〜す2 1 管理者



本日はお忙しい中、御参加いただきありがとうございます。

京都府訪問看護ステーション協議会では、訪問看護の質や知識の向上を図るため毎年訪問看護研究発表会を開催しております。以前は大勢の方にご参集いただきその場で質疑応答ができる環境での発表でしたが本年度の昨年に引き続き WEB 配信という形で行わせていただきます。

今から発表される看護研究は、訪問看護師が日々の訪問の中で感じた疑問から、先人の知恵を参考にしながら橘大学の松本教授のご指導の下まとめられたものです。

訪問看護師の視点や、訪問看護がどのような働きをしているのかを他職種の方々にご理解いただき、京都府の在宅医療・看護・介護の発展につながることを期待して開会の挨拶とさせていただきます。

指導・講評

京都橘大学
看護学部看護学科
教授 松本賢哉 氏



司会

研修委員
訪問看護ステーションどんぐり
管理者 原田 友香



A 地区

複数回の障害が受容過程に影響する要因の分析

公益社団法人京都府看護協会 天の橋立訪問看護ステーション

矢野晶子 (発表者) 増田さおり 木村由美子 矢野日出子 海尻孝昭



講評

この事例は、スタッフの指示が利用者さんに伝わらない、どういう事なんだろう、という所から始まり時間をかけてゆっくり丁寧に聞き取りをして、対象の視点に立って客観的なテクニックを使って「そういう事だったのか」となった。

個別性の高さから応用につながりにくいと感じるかもしれないが、なかなかコミュニケーションが取り辛い事例に対しては、有用な視点や方法を示唆できる良い研究になった。





50代男性利用者の個別事例研究。どこの現場でも同じような事例はある筈で対象理解のヒントが。利用者さんを理解したい、という気持ちや姿勢が随所に感じられ共感しました。

B地区

訪問看護とSNS有効活用

医療法人社団都会 訪問看護ステーションにしがも 奥村由香理（発表者）

医療法人社団行陵会 訪問看護ステーションたかの 中川小百合

ポシブル医科学株式会社 訪問看護ステーションポシブルしも鴨 小山やよい



SNSは世間的にも普及しこの業界でも使っていくのが当たり前になってゆく流れの中、このテーマでの研究ができて良かった。他の機関や全国的にも研究されて行くテーマであると思う。今回は使っているか否かの広い内容であったが、幅を狭めて研究の継続をしていただきたい。



一人の利用者に他職種が関わる在宅の現場での正確で迅速な情報共有の大切さを日々の業務で実感している昨今。スタッフ個々のスキルアップなどの課題など示唆に富んだ内容でした。

C地区

飲酒への依存度が強い利用者のイネーブラーへの働きかけ

～利用者の行動へ尿と家族の幸せ～

医療法人社団京健会 訪問看護ステーションさいきょう

丸岡咲子（発表者） 畑中美代子 竹中知美



「飲むのを絶対にやめないんです」から始まった研究で、精神科領域ではよく見られるイネーブラー介入ですが同様の事例で苦慮されているステーションは多い。今回はどのようなアプローチがあるのか色々調査する中でイネーブリングへの介入方法を調べ実際に良い結果を導き出すことができた。



イネーブリング、イネーブラーのどのような行動や事象に対してアプローチするのかについて深い学びを得られました。是非参考にさせて頂きたいです。

D地区

訪問看護師による狭客の柔軟性維持の有効性について

株式会社彩 訪問看護ステーション響

土明千恵（発表者） 船瀬有輝子 大原悠花 中原彩 松山亜紀



テーマは COPD などの胸部疾患へのアプローチとしてとても大事な視点で、研究内容としても客観的データを示されアセスメント、前後比較など評価視点がしっかりしていて良かった。



訪問看護での呼吸リハの需要の高まりや、有効性を実感してそれに応えられるようになってほしいと思いました。

E 地区

認知機能低下が見られる利用者への内服自己管理の実践と課題

～MMSE を使用したストレングスの分析、介入方法の検討～

株式会社裕修 ラハイナ訪問看護ステーション

三沢優奈（発表者） 水口絹代 松村実久 脇坂郁美 関香芽里



内服がきちんとできない状態に対して MMSE で分析して残された機能を使って服薬管理を促す方法を導くという研究になったが、考察で比較されている IADL による分析をはじめから並行してみても面白いものになったかと思う。



「あるある」「そうそう」と利用者さんの反応や訪問看護師の苦闘の姿にとっても共感し、対象の分析の大切さを学びました。

F 地区

ACP の理解を深め、ターミナルに携わる訪問看護師の死生観に与える影響

株式会社 green-glass ぐり〜ん訪問看護ステーション

上田瑞穂（発表者） 品川智恵子 溝渕奈緒子 北村美咲 山下純子



「パンフレットを渡したいけど渡せない、渡せる人と渡せない人がいる、どうしてだろう」から始まった研修で、それなら、と勉強会をしっかりと「死について語り合う事が悪い事ではないんだよ」という事を学ばれ、その前後の状態を客観的データとして実際にどれだけ変わったか評価できたところが良かった。



利用者さんと死について語る事は訪問看護師にとってはとても大切な事です但同时にとっても消耗することです。勉強会で他のスタッフの思いを共有することでより自然にスタッフ個々の負担の軽減にもつながるなんて、素晴らしいなと思いました。

G 地区

地域要用を支えるスペシャリストナースを目指して人材育成

～フィードバックを活用して楽しく安心して仕事ができる～

株式会社和と礼 訪問看護ステーションワトレにし 西田文世（発表者）



学生の様子を見ていても訪問看護に魅力を感じている学生は多いが今一歩足が止まる要因として教育システムがしっかりしていない、という理由が挙げられている。それに対して事例検討会を実際に行い、それをただ「やった」だけでなくクリニカルラダーを利用して比較・評価したところが良かった。



事例検討会を通してお互い成長しながら人間関係の向上も図るには客観的評価を必要とするという事を痛感しました。褒め讃えあい、安心できる関係からお互いの向上できるポイントを指摘できる関係へと成長された姿は大いに心強い希望となりました。

全体の講評

去年の6月くらいに感覚とか経験を客観的なものに持っていく、それが研究ですという話をしました。夏には「調べて」「勉強して」と何回も沢山言っただ変だったと思いますが、それで客観的な見方をされるようになったり比較するものを持って来られたり、勉強会を始められたりとそれぞれ努力をされました。その努力が今回の研究で自分や自分のステーションが向上できた、向上のポイントが深められたという結果につながったと思います。

これからも日常の業務でつまずいた時、モヤモヤした時、研究的視点に立って考えることで日々の看護の向上に活かしていただきたい。



閉会ごあいさつ

研修委員 大堂 千穂

舞鶴赤十字訪問看護ステーション 管理者



発表者の皆様、お疲れさまでした。

1年間取り組んでこられた看護研究の集大成の場となった事と思います。

そして、ご多忙の中、多大なご協力を賜った京都橘大学看護学部の松本教授に心より感謝申し上げます。新型コロナの流行で、色々な事が変化し対話の方法も変わってきました。この看護研究発表会も録画しWEB配信することでよりたくさんの方に視聴していただく事ができるのは大きな進歩です。同じように訪問看護も日進月歩していきます。日々の業務での気づきや問題に着目し、取り組まれた皆さんの看護研究は、これからの看護を進化させていくとともに訪問看護の素晴らしさを沢山の方に伝えてくださることに繋がります。

来年度の看護研究発表会が、皆さんとお会いして開催できることを期待し、閉会の挨拶とさせていただきます。お疲れさまでした。

★取材・報告

一般社団法人京都府訪問看護ステーション協議会
広報委員会

増谷祐子 優心訪問看護ステーション

瓦葺美和 同和園訪問看護ステーション

浦本博美 洛和会訪問看護ステーション天王山